

新潟市議会代表団 姉妹都市提携 50 周年記念ガルベストン市訪問報告

《訪問日程》

2015（平成 27）年 11 月 12 日（木）～11 月 16 日（月）

《代表団名簿》

団長	高橋三義	議長
副団長	佐藤幸雄	議員
団員	永井武弘	議員
	志田常佳	議員
	阿部松雄	議員
	金子 孝	議員
	小泉仲之	議員
随員	吉田哲之	議会事務局長
随員（通訳）	シャーリーン・ウールソン	国際課国際交流員

《行程》

11 月 12 日（木）	新潟空港出発 ～ 成田空港 ～ ヒューストン空港到着 ヒューストン日米協会主催レセプション
11 月 13 日（金）	在ヒューストン日本国総領事表敬 ヒューストン市内視察 ・ミュージアム・ディストリクト ・テキサス医療センター ガルベストン市役所訪問（市長表敬） ガルベストン港視察 姉妹都市提携 50 周年記念レセプション
11 月 14 日（土）	鉄道博物館視察 歴史地区（ビショップパレス）視察 友好の翼・日本文化体験イベント見学 フェスティバル オブ ライツ 出席 ・オープニング式典 ・鯛車パレード
11 月 15 日（日）	ヒューストン空港出発
11 月 16 日（月）	～ 成田空港 ～ 新潟空港到着

《 概 要 》

第一日 11月12日(木) PM1:00(現地時間, 以下同じ)

ヒューストン空港の正式名称は地元出身第41代大統領の名を冠したジョージ・ブッシュ・インターコンチネンタル・ヒューストン空港であり, 4つのターミナルと5本の滑走路(成田は2ターミナル2滑走路)を持つ, テキサス州ヒューストンの北, 約30kmにある国際空港。テキサス州内ではダラス・フォートワース国際空港に次ぐ大きさで, 全米で9番目, 世界で14番目の旅客数の巨大空港である。主にユナイテッド航空のハブ空港として, 中南米への窓口として活用されている。また空港内には2つの新交通システムを持ち, ターミナル間を結んでいる。

空港では, ヒューストン日米協会理事の坂下みわさん, 事務局長のパッツイ・ブラウンさんの出迎えを受け, 今回の新潟・ガルベストン姉妹都市提携50周年記念事業に対し, 同協会の全面的な協力と在ヒューストン日本総領事館からの支援援助を頂いているとの説明を受けた。さらに同協会主催の歓迎レセプションとして, 坂下さんの自宅でのホームパーティに招待を頂いた。

○空港から市街へ



ヒューストンの街は, 非常に緑の多い, 街が緑に包まれた街である。樹木も松林や広葉樹が多く(ヒューストンより北は針葉樹が多くなり, 南, ガルベストンにかけては広葉樹が多くなるとのこと)日本との違和感もなく, しっかりとした都市計画で街が形つくられているとの第一印象である。街全体はまったく起伏のない平原で, 見渡す限り山や丘は見えない。気候は, 夏は35℃を超えるが, 冬は5℃を下ることがない温暖な地である。しかし一方で, 近年, 集中豪雨が多発し, 平坦な土地が多い上に水路の多い地域なので, 洪水にもよく見舞われるとのこと。

ヒューストンはNASAジョンソン宇宙センターと石油の町とのイメージが強いが, 近年はシェールオイル(シェールガス)が採掘され, 再び活況を呈し, 日本人も多く訪れるようになっている。

空港から宿舎となるホテルへは, やはり車の国アメリカらしく片側7車線のR610市内環状線(なおアメリカの道路は, 道路番号の基本は, 偶数番号が東西, 奇数番号が南北に通じる)を走る。ヒューストンはロサンゼルスより車が多く, 市内では交通渋滞やスモッグも頻繁に発生するとのこと。自動車中心の国にも関わらず, 道路路面は日本のように滑らかなアスファルト舗装がされておらず, 堅いコンクリート面がむき出しで繋ぎ目があるため, 快適な走行とは言えない。これも車が多いため, 管理補修にコストや時間が掛かりすぎることや, スピードを出しすぎることにへの対策だろうかと推測した。

また渋滞解消のため片側15~16車線の道路も計画されているとのことだが, それでも追いつか

ないという。走る車は日本と異なりピックアップトラックや SUV が多く見かけられた。そしてトヨタやホンダ車もかなり多い。

オフィス街のダウンタウンからミドルタウンを抜け、アップタウンにあるホテルへ。テキサス一番の巨大なショッピングモール（江南区イオン新潟南の倍近い大きさではないか）が近くにある。

○ヒューストン日米協会主催歓迎レセプション PM6：30 - 8：30

同協会は、今年で結成47年を迎えた、ヒューストンで日米の相互交流を推進する最大の非営利団体であり、経済や文化交流、教育等の様々なイベントや事業、支援活動を行っている。また歓迎のホームパーティとしてご自宅にお招きくださった同協会理事の坂下みわさんは、香川県の出身で、夫で医師のジョン・ストイエレンさんと暮らし、これまで多くの日本やアジア系の留学生をサポートされている。ご自宅はホテルから30分ほどの高級住宅地にあり、広い前庭とプールのある素敵なお宅だった。

今回のレセプションには、ヒューストンに駐在する主要日本企業の代表の方々など約20名からも参加いただき、新潟とガルベストンが50年にも渡って交流を続けていることに対する敬意と、今後、ヒューストン日米協会も交流をサポートしたいとの激励を頂いた。

高橋議長は新潟市の四季それぞれの魅力を紹介するとともに、今後の交流発展のために協力をいただきたいと挨拶し、参加した方々と多様な分野での交流等について和やかに懇談した。



(写真)

右からヒューストン日米協会ウィリアム・ウェイランド会長
高橋議長

同協会 パッツィ・ブラウン事務局長

同協会 坂下みわ理事

第二日 11月13日(金)

○在ヒューストン日本総領事への表敬訪問 AM10：00-11：00

在ヒューストン日本総領事館は全米に18カ所ある日本の在外公館のひとつで、ヒューストンのダウンタウンに置かれているが、今回は緑に包まれた高級住宅街の中にある総領事公邸にお招きをいただいた。面接者は高岡望総領事、岩崎敦志首席領事。



以下は、高岡総領事のブリーフィングの要約。

- ・新潟とガルベストンの交流が50年にも渡って続いていることが素晴らしい。
- ・ヒューストン市は人口210万人（都市としては全米4位、テキサス州で1位）。メトロポリタンエリアでみるとヒューストン都市圏（Greater Houston）は人口600万人で4位、ダラス・フォートワース都市圏は5位である。面積はオクラホマシティに続き2位。ヒューストン港は輸出が全米一で、総貨物取扱量では全米2位、全世界でも10位の大規模な貿易港である。

ヒューストンの名の由来は、メキシコから独立したテキサス共和国の初代大統領サミュエル・ヒューストンによる。

テキサス州の人口はカリフォルニア州に続いて2位で、面積は日本の2倍、全米の1/7を占める。テキサス州のGDPは、スペインや韓国、オーストラリアを超え、カナダやインドと同じ世界12位のレベル。

日本との繋がりでは、トヨタ自動車はヒューストンから西に3-4時間のサンアントニオ市内にピックアップトラックの工場を持ち、最近では北米本社をカリフォルニアからダラスに移転させた。

大阪ガス、中部電力、東芝もフリーポート社（本社ヒューストン）とシェールガスの輸入契約を結んだ。

またヒューストン-ダラス間は約370キロ、車で4-5時間の距離だが、新幹線方式による高速鉄道計画があり、JR東海が出資検討をしている。

- ・原油価格が下落してシェールオイル事業は厳しいとの見方もあるが、石油産業は裾野が広いので、掘削などの上流事業は2-3割減だが、精製の中流、販売の下流はそうではなく、ヒューストンでは、シェールオイルの効果もあり、あちこちで開発工事が行われ、経済は年間4%伸び、活況がある。
- ・日本との航空便は、成田からユナイテッド航空が毎日1便。今年の6月から全日空がヒューストン、11月には日本航空がダラスに週各5便を運航する。ヒューストン空港はメキシコ、中南米への乗継ハブ空港の役割を果たしている。そしてNASAのジョンソン宇宙センターには日本人の宇宙飛行士4人が常駐し、また、車で1時間くらいのところに牧場が広がっており、日本からの観光資源になる。
- ・TPPではアメリカの牛肉輸入が、日本では脅威に受け止められている。しかし、日本そして新潟から、アメリカ・テキサスに新たに物産を輸出する良いチャンスでもある。



(写真)
総領事公邸前にて
左から4人目が高岡総領事

○ヒューストン市内視察 AM11:00-12:30



(写真)

公園内をトラムが走る。

運行区間はダウンタウンからTMCまで。

ヒューストン日米協会のパッツイ・ブラウン事務局長の案内で、ミュージアム・ディストリクト（博物館・美術館地区）とテキサス医療センター（TMC）を視察。

ミュージアム・ディストリクトはダウンタウンの南、南のハーバードと称されるライス大学やテキサス医療センターに隣接する地区にある。この地区にはヒューストン美術館、自然科学博物館、現代美術館など有名なミュージアムや広々とした公園があり、年間700万人が訪れるという。ヒューストン美術館はテキサス州最古（1924年に創立）で最大の美術館。常設展示だけで4万点の作品を展示している。

自然科学博物館が立地するハーマン・パーク内には動物園もあり、多くのスクールバスが公園内に停車して、子どもたちがパークを楽しむ姿も見られた。

一方、テキサス医療センターは世界最大、世界一の最先端医療基地である。設立50年を経て、現在21の病院、大学、医療従事者養成機関、研究施設等69の非営利機関が集まっている。全部で8千ベッドを有し、赤ちゃんは20分に1人生まれており、センター内には全ての要求に対応できる専門施設がある。特にがん治療や心臓治療が優れており、日本をはじめ全世界から優秀な研究者や、重篤な患者が集まっている。

○ガルベストンへ

ガルベストン市はヒューストンの南東約80kmに位置し、メキシコ湾に面した沿岸砂州が発達してできたガルベストン島とペリカン島からなる、テキサスで最も古い19世紀初頭からの重要な港町である。1900年のハリケーンで大きな被害を受けるまでは、テキサスの港湾・商業・金融の中心として大いににぎわっていたが、以降はヒューストンにその機能が移った。しかし当時をしのばせるダウンタウン「ストランド地区」に面影を残す。

新潟市第一号となる姉妹都市提携について、新潟地震直前の昭和39年に両市議会が承認決議を行い、昭和40（1965）年1月にガルベストン市にて共同声明を発表してから、今年で50年が経過した。

この間、新潟地震や平成20（2008）年9月ガルベストンを襲ったハリケーン・アイクでの相互支援を通じ、絆と交流を深めてきた。

○ガルベストン市役所表敬訪問 PM3：00－4：00

ガルベストン市役所では、出迎えてくれた市民委員会のギルバート・ザモラさんと合流し、ジム・ヤーブロー市長及びシティ・マネージャーのブライアン・マックスウェルさんと会見した。

冒頭、ヤーブロー市長は「1965年1月28日に姉妹都市を締結し、50周年。今日、2015年11月13日を50周年記念の日として宣言したい」と発せられ、新潟市議会代表団も拍手で歓迎、これに同意した。



(写真)

ガルベストン市の ジム・ヤーブロー市長から
「新潟市・ガルベストン市 姉妹都市提携50周年
記念日」の宣言書が高橋議長に贈呈された。

以下ヤーブロー市長の発言内容。

「ガルベストン市は、昨年市制施行175周年を迎え、多くの記念事業に取り組んだ。市域は東西32マイル（50キロ）、南北2.5マイル（4キロ）ほどの長い島である。

人口は5万人と言われてきたが近年は4万人程度で、他は島外から働きに来ている。夏は観光客が600万人訪れる。テキサスではサンアントニオ（西部開拓時代の雰囲気の色濃く残す全米有数の観光都市）に続いて2番目。ガルベストンは、他のテキサスの都市に比べて石油産業への依存度が低く、メキシコ湾に面し、ヒューストンに近い恵まれた環境を活かし、観光や港湾事業が中心産業となっている。

ガルベストンの歴史は175年を超え、ミシシッピ川以西で初めて新聞社が置かれ、赤レンガ造りの家やビクトリア調の建物も作られた。1900年のハリケーンでは、6千人以上が亡くなったが、その教訓からメキシコ湾沿いに5メートルのシーウォールを建設したことで、ハリケーン・アイクでは東側からの高潮を防ぐことができたのは街の誇りである。

市議会は、全市から選ばれる市長と、6選挙区から選ばれる6名の議員の7名で市政を運営し、非常に関係が良く運営されている。市長、議員の任期は2年3期まで。議会はシティ・マネージャー、弁護士、秘書等を採用する。シティ・マネージャーは日本にはない制度だが、市行政の日常業務遂行や、そのため必要な各部署の長の任命権を有する。

今回の新潟市からの訪問団を楽しみに待っていた。今回、姉妹都市締結時に頂いたモニュメントを市役所正面の、市民の目につきやすい場所に移動した。ハリケーン・アイクの際、新潟市から送られた義捐金で整備したパーム・ツリーも立派に大きくなり、皆さんに是非見てもらいたい。」



(写真左)

50年前の姉妹都市提携時に
新潟市が贈ったモニュメント

(写真下) パーム・ツリー



これに対し、市議会代表団の団長である高橋議長からも「あたたかい歓迎をいただき、感謝している。姉妹都市のガルベストン市について、議会としても理解を深め、両市の交流を支援したい。新潟市にも『ガルベストン通り』と記念モニュメントがあり、ガルベストン市の花・夾竹桃と新潟市の花・チューリップがデザインされている。ガルベストン市民の皆さんにも、ぜひ新潟市へ見に来ていただきたい。」と挨拶を返した。

○ガルベストン港視察 PM4：30－5：00



市役所を訪問後、ガルベストン港へ視察に行く。まず港に近づくとディズニークルーズや、ロイヤル・カリビアン of 巨大なクルーズ船が目飛び込んでくる。岸壁には多くのバスが横づけされており、クルーズの経済効果を肌で感じる事ができた。

港湾管理局にて、ロジャー・キローガ経済開発及び渉外局長（1999年に新潟来訪）よりガルベストン港の概要のレクチャーを受ける。キローガ局長は、メジャーリーグドラフト1位の元ピッチャーで、その後銀行に勤務し、ガルベストン市長も務めた実力者だ。

ガルベストン港は、19世紀には「メキシコ湾のニューヨーク」と呼ばれ、ガルベストン島の内海であるため常に波が静かで、すぐに外海へ出られるという地の利を活かし、テキサスの入口として大いに繁栄した。岸壁はマイナス14メートルと自然の良港になっている。1900年のハリケーンで

は大きな被害を受けたが、以降順調に回復している。最近では港の東端岸壁にて、BMWと契約し年間3万6千台の自動車輸入を行っている。

2000年には全く来ていなかったクルーズ船が、今ではアメリカ第4位、世界でも14位のクルーズ船の寄港地となっている。港にはクルーズ用の2つのターミナルを持ち、カーニバルグループ、ディズニー、ロイヤル・カリビアン等の4グループの寄港地となっている。そして港湾歳入の6割がクルーズ船の入港料等で占められている。

今後、対岸のペリカン島の遊休地に42億円（35百万ドル）程の投資をして、港を拡大する予定との説明を受けた。

○ガルベストン市主催姉妹都市提携50周年記念レセプション PM6:30-8:00



姉妹都市提携50周年記念事業に合わせて新潟市からガルベストンに派遣された「鯛車復活プロジェクト」チームの皆さん、「ガルベストン友好の翼」で来訪された新潟市民の皆さん、そして新潟市議会代表団の総勢42人をお招きいただき、ガルベストン市主催のレセプションが盛大に催された。

レセプションでは、ヤーブロー市長、ガルベストン市議会議員、新潟市との交流活動にご尽力いただいている市民団体であるガルベストン・新潟委員会の皆さんから歓迎の言葉をいただいた。

新潟市が記念に作製した「GALVESTON-NIIGATA」の文字が入った赤い法被を着た高橋議長からは、姉妹都市提携50周年を祝う言葉とともに、交流が50年間にわたり継続、発展してきたこと、また記念事業の企画等にガルベストン・新潟委員会の皆さんから多大なご協力をいただいたことへの感謝の気持ちを伝え、この法被をプレゼントした。参加者は終始フレンドリーな雰囲気のなかで、それぞれに交流を深めていた。

第三日 11月14日（土）

○鉄道博物館 視察 AM10:00~12:00

この施設を運営する団体の理事の一人であるスティーブン・ダンカン博士は、ガルベストン・新潟委員会のメンバーであり、今年6月にガルベストン市使節団として新潟市を来訪されたメンバーの1人である。昨年、新潟市秋葉区の新津鉄道資料館を訪れ、たいへん興味をもって見学されたそう。

そのダンカン博士から、直々に丁寧な解説・説明をして頂いた。車両が使われていた当時のままに食堂車、寝台車、客室などが保存され、訪れる客を魅了する施設である。食堂車で実際に乗客が使った皿・スプーンなども展示されており、鉄道模型の展示施設では実際に機関車を走らせて頂いた。広大な敷地には様々な時代の鉄道車両が数多く並んでおり、見学者は実際に当時の機関車に乗って、警笛を鳴らしながら1キロ程度の走行を体験することもできる。数年前、巨大なハリケーンに見舞われ

て施設も甚大なる被害を受けたが、速やかに復元が出来たということでダンカン博士も喜んでおられた。

この博物館では子どもたち等の団体を対象にした体験プログラムも用意しており、楽しみながら鉄道の歴史に触れることができる施設として、活用されていた。

今回、新津鉄道資料館からの贈呈品として「鉄道模型」をお渡ししたが、今後、両市の鉄道ミュージアムを通じた交流の発展も大いに期待される。



○歴史地区(ビショップパレス) 視察 PM1:00~2:00

ガルベストン市の歴史地区を代表するビショップパレスは、1892年に建設されたビクトリア様式の建造物である。弁護士であり政治家であったウォルター・グレシャム一家の邸宅であったが、彼らの没後(1923年)にガルベストンのローマカトリック教区の司教に売却され、バーン司教が居住していた。その後一般に公開され、2013年からはガルベストン歴史財団が管理している。

石づくりのアンティークな豪邸は、当時のままに食堂・書斎・寝室・礼拝の部屋などが公開されており、この建物を寄付や入場料で維持管理していることから、ガルベストン市民が、様々な所に工夫を凝らした歴史ある素晴らしい建造物を大切に守っていることが感じられた。

○友好の翼・日本文化体験イベント見学 PM3:00~3:30

新潟市から「姉妹都市50周年記念ツアー・ガルベストン友好の翼」で訪問した総勢26名の企画・運営により、市内ホテル庭園内の会場において、ガルベストン市民が無料で新潟らしさと日本文化を体験できる仕組みを用意したイベントである。

玄関前には日本酒の試飲コーナーを設置、新潟市の酒や米菓を体験していただき、たいへん好評であった。書道コーナーでは、指導者を配備し、実際に筆を持って本格的な「書」の文化を体験していた。琴の演奏コーナーでは多くの曲が披露され、観客は和の音色に感動していた。

折紙コーナーでは、多くの子どもたちや見物客が担当者から指導を受けながら、楽しく真剣に折鶴づくりを体験、豆を箸でつまむコーナーでは、日本の伝統である箸を使い、豆を移動させるのに子どもだけでなく大人も挑戦し、悪戦苦闘していた。

ガルベストン市民の皆さんから日本文化に接していただき、喜んでいただけたことを嬉しく思うとともに、このイベントをご準備、ご支援くださった皆さんに、あらためて感謝を申し上げたい。

○フェスティバルオブライツ・オープニング式典 PM4：00～

約1,000人の市民や観光客が集まったクリスマスの祭典・フェスティバルオブライツのオープニング式典では、新潟市を代表して高橋議長がステージに上がり、若干の英語を交えて「ガルベストン市の皆さんと一緒に、フェスティバルを盛り上げたいと思います。皆さん、大いに楽しみましょう！」とスピーチした。屋外ステージで若干の肌寒さが感じられたが、それでも多くの市民からの参加を頂き、ヒューストンで活躍する勇壮な和太鼓チームの演奏、サンタクロースによるパフォーマンス、子どもたちのコーラスなどがステージで繰り広げられた。



(写真 左) オープニング式典

前列左から高橋議長,

キャロライン・サンセリ市議会議員

○鯛車パレード

今回のパレードに使う鯛車には、「鯛車復活プロジェクト」の皆さんが、3年にわたるワークショップでガルベストン市民に作り方を伝えたものと、この間ダンカン博士の協力によりガルベストンの小学生・高校生が学校で作ったものからなる。51台の鯛車は彩りも個性も豊かに出来上がっていた。

夕闇の訪れる中、ガルベストンの子どもたちと「友好の翼」メンバーが、法被や和服姿で、灯りつけた鯛車を一台ずつひもで引きながらステージに上がる。その幻想的な光景と一人ひとりの笑顔に、観客や家族は拍手喝采となり、50周年を強く印象づけられた。



(写真 左) ガルベストンで作られた色とりどりの鯛車を持つ子どもたち

(写真 下) 友好の翼メンバーも加わった鯛車パレード



第四日 11月15日(日)～ 第五日 11月16日(月)

15日の早朝(午前6時)にガルベストンを出発,陸路ヒューストン空港へ。遅れることもなく,成田空港経由で帰国,16日の夕刻に,新潟へ無事に到着した。

《 総 括 》

50年前に姉妹都市を提携したアメリカ・ガルベストン市は,東京からでも片道12時間余,やはり地理的に遠いことを実感した。この遠距離が高いハードルとなっているものの,この50年の間に頻度は少ないが相互訪問により文化スポーツ等の交流が継続され,また両市が自然災害に見舞われた際には相互支援が行なわれるなど,両市における市民委員会のご協力により,息長く育まれた心の絆が,本年,両市において姉妹都市提携50周年を祝う機運を高めたものと感じられた。

この,市民が育んだ姉妹都市交流の絆を,新潟市(行政)はしっかりとサポートしていかなければならないし,市民が安心して交流し相互訪問できるような都市間の信頼関係を築いていかなければならない。今回の訪問により互いの姉妹都市に対する理解が深まったことを実感するとともに,議会としても,新潟市が目指す国際交流の推進に向けた,都市間の親善・協力関係の発展が重要であることを再認識できた。

最後に,関係各位のご協力に心からの感謝を申し上げ,訪問の報告とさせていただきます。